



洞戸地域

高賀山を中心とした山々に囲まれ、長良川の支流・板取川が流れる洞戸地域。清流が、豊かな恵みをもたらし、美しい景観を形づくりま



高賀神社

奈良時代に創立後、平安時代、南北朝時代、江戸時代に3回再建された神社です。魔物「さるとらへび」の退治後、再び住みつかないように高賀神社をはじめ六社を建立し、守護神を祀ったという伝説が残されています。



高賀溪谷

巨岩、奇石、一枚岩の合間を縫って4km余りにわたり清流が流れる溪谷。川底の岩肌の色が白く、水の透明度が一層引き立ちます。長い年月をかけて清流が作り出した溪谷美です。

洞戸キウイ



昼夜の寒暖差が大きい洞戸では甘みと酸味のバランスの良いキウイが実ります。



洞戸円空記念館

北海道から近畿にかけて、その足跡が残されている円空。三度、高賀の里を訪れ、晩年から入定するまで高賀で過ごし、最後の作品といわれる「歓喜天」を彫ったと伝えられています。

ちょうちんまつり

古来より「厄除けの神」として崇敬されている通元寺地区の津島神社の祭礼。百数十本の竹にちょうちんやタオルをぶら下げ、神社まで町内を練り歩き、境内の石垣から竹を激しく引っ張り、ちょうちんを奪い合うまつりです。



刀鍛冶

鎌倉時代、刀祖「元重」が九州から関に移り住み、刀鍛冶を始めたといわれています。室町時代には、関の刀は「折れず、曲がらず、よく切れる」と全国にその名を広めていきました。戦国時代では、武将の間で愛用され、無類の切れ味を發揮したといわれています。

関の刃物

関の刀鍛冶由来の刃物製造の技法とモノづくりの精神が受け継がれ、今も関の刃物産業の随所に生かされています。国内のみならず海外にも、「関の刃物」は「世界三大刃物産地」の一つとして知られています。



小瀬鶴飼

奈良時代の史書にある「美濃鶴飼」の伝統を受け継いでいるといわれる小瀬鶴飼。平安時代に醍醐(だいて)天皇から賞賛され、織田信長からは「鶴匠」という名刺を与えられました。明治二十三年からは宮内庁の直轄となり、一千有余年の伝統を守り続けています。